

だいせつぎんのすがお

大雪山の素顔

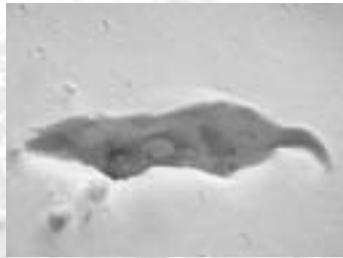
山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人たちをリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

冬の楽しみ

冬が近づいてきました。

雪虫があちこちで飛び始めるようになると、上川盆地を吹き抜ける風の冷たさが増してきます。湿度の高い雪が降り始めるのも、もう時機でしょう。溶けたり降ったりを繰り返すうちに、落ち葉はだんだんと地面に張り付き、土になる準備をしているかのようです。彩りが少なくなり、だんだんとモノトーンの世界が近づいているのですね。雪がなく、冷たい風が吹く今時期が、一番体が寒く感じる季節かもしれません。

ただ寒さをしっかりと受け止めて活動を続ける生き物たちもいるのです。寒さの厳しい旭岳温泉の周りにも、キトウシ山の森にも冬を生きる命を見つけることができます。まず目につくのは小鳥たちでしょうか。その声から存在を知ることが多い小鳥ですが、葉の落ちた森では簡単に姿を見つけることができるでしょう。



エツクロテンの体が雪に埋まった跡
(昨年12月、旭岳温泉自然探勝路で)

シジュウカラ、ハシブトガラ、ゴジュウカラ、エナガといった小鳥たちは、冬の間「混群」と呼ばれる集団を作っています。種を超えて大きな群れを作ること、外敵から身を守っているのです。コツコツ木をつつくキツツキたちも冬の森では目にします。小鳥もキツツキも1年を通して森に住む森の常連です。

旭岳温泉の周辺では、雪の上を動き回る動物たちを見つけることができるでしょう。木から木へと続く小さな足跡を見つけたなら、それはきっとネズミです。ネズミの足跡を追うようにオコジョやエツクロテンの足あとが続いているかもしれません。

時には重なり、時には交差する足あとを見ながら、動物がどんな動きをしたかを想像するのはなかなか面白いものですよ。夏の間、動物の動きはほとんど分かりませんから、冬だけの楽しみですね。

寒さは私たち人間にとっても大敵ですから、なかなか外に出かける気力が湧きませんよね。でもきちんと防寒着を着込めば、意外に普通に歩けるものです。冬だからこそ出合える生き物たち、冬だからこそその風景を探しに、冬の森に出かけてみませんか。何も無いと思っていた場所で、意外な発見があるかもしれませんよ。

NPO法人ねおすコーディネーター

大雪山自然学校代表 小林 峻

俳句

名刀の切っ先のごと初秋刀魚

山行の歩みを止める草紅葉

身に沁むや回転ドアの空回り

バスを待つ凌ぐ雨風しむ身なり

身に沁むや車窓を過ぎる家灯り

鎧戸の褐色に燃ゆ秋の宿

秋深しミレーの晩鐘重ねおり

足を止め息とめコオロギ鳴くを待つ

青々と澄みたる湖面雁渡る

秋来たるふとる覚悟のメニューかな

よろこびの振り袖に咲く菊の花

身に沁むや鈴もひとりりんの般若経

身に沁むは空の高さと風のいろ

松山 蓉子

三島 智

秋山 深雪

長谷川 きみゑ

小林 露葉

青野 公花

杉山 ひろのり

徳光 吐苦

杉山 りつ

山口 佐知子

高瀬 潤

石澤 清宏

澤田 久美子

